

平成28年度JICA招へい事業「イネ育種高度化」(AGRI-Net)の実施

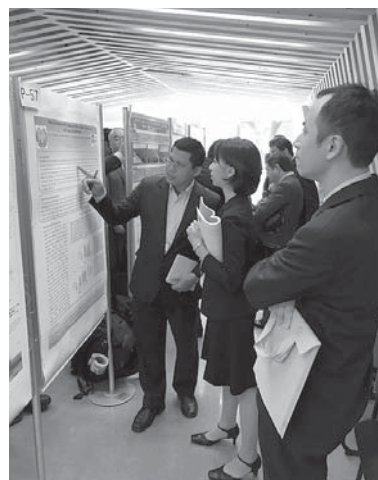
「食料安全保障のための農学ネットワーク協力(通称AGRI-Net)」の一環として、招へい事業「イネ育種高度化」を2017年3月6日～4月17日に行いました。今回は、AGRI-Netの試行と位置付け、ベトナム、ミャンマー、ケニアから計5名の研修員を受け入れ、九州大学、名古屋大学、ベトナム国家農業大学の連携により実施しました。まず、日本で一ヶ月、イネのゲノム科学と育種に関する講義を受講、DNAマーカーの取り扱い、遺伝子組み換え植物の作成やQTL解析の実習を受けました。続いてベトナムへ移動し、現地の国家農業大学及びソクチャン省イネ育種場において二週間、大量交配技術の実習、DNAマーカーと形質の連鎖解析の手法を学びました。ベトナムでは、日本との共同研究事業実施場所として整備された施設や圃場において実験実習を行うというプログラムを企画できたことにより、春の初めの時期に本事業を行うことができました。今回の試行実施にご協力いただきました日越の関係者全ての皆さまに御礼申し上げます。(江原 宏)



修了証書を授与された研修員と受入れ教職員

カンボジアサテライトキャンパスからのスクーリング生の受け入れ

国家中枢人材養成プログラムにおいてカンボジアサテライトキャンパスで学ぶ生命農学研究科博士課程後期課程1年のコン・キアさん(カンボジア農業省農業総局)が2017年3月26日～4月7日のスクーリングのために来日し、当センターに滞在しました。期間中、3月29日～30日に東京大学農学部弥生キャンパスで開催された第243回日本作物学会講演会において、Effect of Different NPK Rates on Rice Yield in Prateah Lang Soil Type in Cambodia(カンボジアのPrateah Lang土壌タイプにおけるNPK施肥量の違いがイネ生産に及ぼす影響)と題した研究発表を行いました。また、4月5日には企業訪問プログラムに参加するなど充実したスクーリングとなりました。(江原 宏)



学会で研究発表を行うコン氏

ハサヌディン大学工学部研究・連携基盤強化プロジェクト(C-BEST)への支援

インドネシアではジャワ・バリへ人口・経済活動が集中し、スラウェシなど東部地域(EPI)との経済格差が依然大きい状況です。EPIは農林水産資源が豊富ですが、技術、情報、インフラ、人材の不足が開発阻害要因となっています。そこで、地場産業の創出・発展のための体制整備や人材育成に向け、JICA有償技術支援が2015年より実施されており、産学連携技術センターが設置され、研究と産学地連携の強化を目的とした協力が行なわれています。この度は、2017年5月18日～23日にプロジェクト運営指導に係る調査団員として南スラウェシ州に赴き、サゴヤシ資源の利活用による地場産業の振興に係る研究アドバイザーの業務に当たりました。(江原 宏)